

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
18	鈴木 幸司（12）	<p>1. 都市交通を補完するシェアサイクル導入の可能性について  昨年、富士市自転車活用推進計画について一般質問した際、シェアサイクルの普及について「サイクルポートを複数箇所に設置する必要があるため、利用者の見込みや費用対効果を見極めた上で導入を検討する必要があると考えております。導入に当たっては、市民の皆様の日常的な交通手段や観光での利用に加え、ビジネスなどの利用の可能性も含め、公共交通事業者や関係機関等と連携し、検討してまいります」との回答を受けた。</p> <p>かつて富士駅－新富士駅間をワンコインタクシーでつなぐ実証実験も行われたが、導入には至っていない。先月、そうした短距離、いわゆるラストワンマイルを結ぶシェアサイクルのプラットフォームを提供しているオープンストリート社に直接話を伺った際、「富士市も視察に見えますよ」という話を耳にし、少しずつ検討が進んでいることを知った。昨年の質問から一年が経過し、富士市へのシェアサイクル導入可能性について、以下のように伺う。</p> <p>(1) 利用者の見込みや費用対効果についての研究結果はどうか。</p> <p>(2) ビジネスなどの利用可能性を含めた、公共交通事業者や関係機関等との連携及び検討はどのように進んでいるか。</p> <p>(3) サイクルポートなどのインフラは市で整備し、運営を民間に任せる上下分離方式で、富士市にもシェアサイクルを導入してはいかがか。</p> <p>2. マイナンバーカードの健康保険証利用と、富士市立中央病院のさらなる利便性向上について</p> <p>マイナンバーカードを健康保険証利用することで、薬局等で受け取った薬の情報や特定健診結果などを医療機関・薬局で医師等と共有することができるようになった。個人の医療情報は、取扱いに特別な配慮が必要な情報であり、今までは安易に利用することができなかったが、デジタル技術を活用することで厳格な本人確認が可能になり、こうした健康医療情報を個人や医療機関で活用すれば健康寿命の延伸につながると期待されている。富士市立中央病院のさらなる利便性向上を期待し、以下のように伺う。</p> <p>(1) その普及状況が国の交付金配分にも反映されるマイナンバーカードの、富士市における普及はどの程度進んでいるか。</p> <p>(2) そのうち健康保険証としての利用を申し込まれている割合はどれくらいか。</p> <p>(3) 国民健康保険の資格証明書や、公費負担のある定期検査費等受給者証とマイナンバーカードの連携は可能か。</p> <p>(4) 資格証明書や定期検査費等受給者証を利用して受診する人に対しては、「料金後払い方式」の導入が望まれると思うがいかがか。</p>	市長 及び 担当部長